

シン学校プロジェクト(第1期) 一宮市立大和南小学校基本計画(案) 地域説明会 当日質疑

- 日時:2025年(令和7)年12月20日 午後6時30分～午後7時40分
- 場所:大和公民館 大会議室
- 参加者数:22人
- 質疑応答:11件(5人) 詳細は、下記のとおり。
ご質問・ご意見の内容は、発言又は原文の一部を要約、分割するなどし、掲載しています。

No.	ご質問・意見の概要	市の考え方(回答)
1	具体的な話があまりされていないと感じますが、30分で質疑応答は終了するのでしょうか。10個質問があります。説明会は最後のようですが、時間に関して多少の柔軟性はないのでしょうか。	ある程度の柔軟性を持って対応させていただきますが、あらかじめ時間を定めて開催していますのでご理解ください。
2	質問が10個あります。 ①屋内運動場に武道場の代わりとして畳を敷いたとき、他の授業はできないのではないのでしょうか。 ②100m直走路が必ずしも必要ではないとのことでしたが、思いっきり走れたほうがいいのではないのでしょうか。当初図面で示しておいて、50mでも良いということは疑問が残ります。 ③特別教室について、体の大きさが異なる小学生と中学生が共用するということですが、机や椅子、黒板の高さなどどのようにお考えでしょうか。 ④中学生用の鉄棒の設置場所はありますか。 ⑤図書室は、一宮市の場合2教室で1つの図書室と思いますが、大和南では小中合わせて1つの図書室です。本は他の学校の半分となり、さらに図書館準備室も同じ場所に配置するということは問題ではないのでしょうか。 ⑥卒業式や入学式等の行事では、壁に貼ったお祝いの言葉や飾り等があるため、屋内運動場の共用は、他校と同じようにはいかないのではないのでしょうか。 ⑦屋内運動場のバスケットのコートの高さやゴールの高さは小学生と中学生で異なるのでしょうか。 ⑧立派な理念に向かって他の学校と違うカリキュラムを行うということですが、特別に教職員を加配するなど話は聞いておりません。その中で、市内から通学したくなる学校にするということは、教職員の負担がかかり、働き方改革に逆行すると思います。 ⑨小学生と中学生では、授業時間が異なります。狭い土地の中でチャイムが鳴らせず、授業の運営が大変ではないのでしょうか。また、他の県の学校では、中学生の授業に合わせるため、小学生の遊び時間が短くなるという事例があり、子どもたちにしわ寄せがくるのではないのでしょうか。 ⑩『ワークショップでいただいた意見』に記載されていることはそのまま実現されるというわけではないと思います。例えば『放課後児童クラブの充実』と記載がありますが、イメージ図では、現在より放課後児童クラブの部屋が少なくなるように見え充実しているとは言えないと思います。他も同様で、『ワークショップでいただいた意見』には素晴らしい言葉が記載されていますが、具体的にはどういったことを指しているかわからず不安です。	①畳は屋内運動場全面に敷くことを想定していませんので、時間割などの工夫は必要ですが、他の授業は行えます。また、仮に1学年2学級として、9学年で18時間の授業が行われることになる場合ですが、市内の規模が大きい学校では24時間の授業が行われている学校もあるため、学校の施設、設備としては、余裕があります。 ②運動場については、異学年同士が活動できる運動場、地域開放可能な運動場として計画いたします。運動場の大きさとしては、文部科学省が定める、小・中学校の運動場の必要面積を確保いたします。市内の多くの中学校で200mトラックを整備しており、大和南小学校でも同様に整備することができます。また、中学生の体カテストでも50m走のタイムを基準としていますので、100mの直走路が必ずしも必要というわけではありません。実際に児童と生徒が運動場を共用するとすると、その動線が交錯してしまう可能性もありますので、ルールを決めて児童生徒が安心して運動ができるようにいたします。 ③多目的室などには簡易に高さの調整が可能な備品の調達を検討いたします。 ④屋外設備の配置については基本設計、実施設計の際に学校と協議いたします。 ⑤図書室については、図書やデジタル情報など多様なメディアを提供して、児童生徒が自発的、主体的な学習活動ができるように整備いたします。 ⑥卒業式や入学式については、小学校、中学校がそれぞれで行いますが、9年間を通じた関わり方については関係する皆さまとともに検討してまいります。 ⑦バスケット及びミニバスケットの公式ルールでは小学生と中学生のゴールの高さ、コートの高さは異なります。小・中学生の屋内運動場の共用においては、体育授業に支障が無いよう今後の基本設計、実施設計で検討いたします。 ⑧学校教育課にて、先生の配置や特徴のある学び、小中一貫校としてどのように計画するかを検討しています。新しい学びを実現するためには、教職員相互のより良いコミュニケーションの上に、信頼関係や協力関係を作り出すことが重要です。そのための機能性や居住性をもつ執務空間づくりを目指すとともに、多様な働き方に対応した快適な職場環境づくりに配慮いたします。 ⑨チャイムについては、建物別ですので運用上、小・中学校で別の動きをするということではできると考えています。 ⑩放課後児童クラブの定員数は維持いたします。
3	具体的な問題がはっきりしていないため、形だけにならないかと心配です。小中一貫校に関係なく、どの学校でも同じように教育を頑張っていると思います。小中一貫校だからという説明は語弊があるように感じます。	『9学年一緒に学び舎にいる』ということとはとてもよい環境だと思います。これだけの学年が集うことはあまりありません。この強みを教育課程に活かしていきたいと考えています。
4	何年も前から小中一貫校になるという話は聞いておりました。説明いただいた「大規模倉庫の建築による児童生徒の交通安全と学習環境への影響を懸念」という部分ですが、建てる前に市として止めれば問題は起きなかったのではないのでしょうか。これからさらに物流倉庫が建つことも聞いています。これにより、交通量が増えていくと思います。その影響で、自分の自宅からも出にくいです。これは想定できたことではないのでしょうか。	地域の皆さまから2024年6月に応募提案をいただきましたので、小中一貫校の話は、そこからの始まりと考えています。大和南中学校周辺は用途地域による物流倉庫の建設が制限されていない区画のため、市として計画を止めるということとはしていません。また、交通量の増加の影響がある中で、住宅団地のほぼ中央にある小学校の方にできるだけ集めて小中一貫校にしていくというご提案をいただきました。市としても大和南中学校の土地が大和南小学校と比べて大きいですが、提案は妥当であると考えています。
5	今年は気温が高く、どの学校もプールに入れなかったため、民間プールの活用の検討をするということですが、大和南小・中学校ではどこにお願いをするのでしょうか。往復するだけでも時間を費やし大変なのではないのでしょうか。	プールについては、利用する機会が減少しているため、小中一貫となった場合を見据えて、水泳授業を民間のプールで行うことを検討しています。すでに民間のプールを活用している学校の実例を紹介します。移動手段はバスを使用しています。2時間を1回として、60分の授業時間を確保できるよう、学校から片道20分圏内のプール事業者に授業を委託し、水泳に特化したインストラクターが指導を行っています。実際に、今年で2年目として行っています。60分の授業を5時間行い、文部科学省が定める教育課程の泳力の伸びについては、確保されています。
6	消防団に所属しています。毎年4月に消防操法大会があり、以前は大和東小学校で夜間訓練を行っていましたが、周辺の住宅から騒音の苦情があり、訓練を大和南中学校で行うようになりました。大和南中学校の周辺は、住宅がないため、現在も活動しておりますが、今後、大和南中学校がなくなるのであれば、どこで訓練をすればよいのでしょうか。	大和南中学校の跡地利用については、現時点で未定です。
7	プールの民間利用における、親の負担はありますか。	水泳授業の民間委託による保護者の方へのご負担はありません。
8	大和南中学校の利用は、未定となっておりますが、今ある武道場、施設は移動時間をかけてでも利用したほうが良いと思います。屋内運動場に畳がないから畳を準備するということは大変だと思います。大和南地区には、市民が集まり活動する場所がありません。大和南中学校の教室や運動場を地域に開放していただき様々な活動ができるような方向性を考えていただきたいです。	ご意見については、今後の参考とさせていただきます。 なお、大和南中学校の跡地利用については、現時点で未定です。
9	数年後には各学年1クラスの学校規模になります。きめ細やかな指導を行うために先生が多いというのは利点であると思います。屋内運動場の生徒1人あたりの面積は他の中学校と同等となっておりますが、生徒を何人と想定しての計算なのか教えていただきたいです。	現在の大和南小・中学校が全て2学級になった場合の小・中学生の合計人数を516人と想定し、面積720㎡に対する1人当たりの面積を算出しています。算出では、1人当たりの面積は1.4㎡です。1人当たりの面積が1.4㎡以下の中学校が市内にある中でも、体育の授業は支障なく行えています。人数が増えたとしても、時間割などは工夫する必要はありますが、決して狭い屋内運動場ではないと考えています。
10	部活動の地域移行についてですが、大和中学校へ行かなければ部活が行えないでは困りますので、種目に応じてコートの整備を視野に入れて検討していただきたいです。	地域移行については、希望する種目を学校外のところで部活動から離れて行っているものです。市内で2,000人弱ほどが参加しており、58箇所の拠点でそれぞれ種目があります。様々な場所に拠点があるため、中学生は希望する種目を自らが選び、自転車で移動し、参加することが可能になっています。大和南中学校の生徒も含めた子どもたちがスポーツや文化的な活動をしたい時にできる場所が広がるように務めてまいります。地域移行にはそれぞれの拠点がたくさんありますので、大和南中学校の子どもたちも自分の希望する種目を選び参加することが可能です。
11	小中一貫校になると、卒業式はどのようになるのでしょうか。	今回の小中一貫校については、小学校6年、中学校3年という枠組みは残したまま9年間を一体とした教育目標やカリキュラムを検討してまいります。行事によっては、小学校と中学校が関わることが想定されますが、行事などを削るということは考えていません。